

今年は全般に生産減少が大きく、多くの品種がお客様のご希望球数に満たないため調整のお願いをさせて頂いております。代替品も十分とは言えませんが、営業よりご案内をさせて頂きますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。上記グラフの通り、日本全体として仕入時点で昨年(肥大不足でNZ産のショートが多かった)実績にも届かない結果です。他国では更に厳しい分配となるため、22年オランダ産(9.10月定植)を追加手配する動きが出ているそうです。

弊社は、南半球の生産/輸出会社と、20年来の安定継続した関係を築いており、今年のような難しい年でも、比較的需要のある品種/サイズの代替品を押さえさせていただきます、昨年実績並みの取扱いを予定しています。(CH産LAは微増)

② 価格について

為替相場は、昨年同時期に比べ円安水準にあり、球根相場も全般に上がっています。政府・日銀による(円安)政策がいつまで続くか不透明で、輸入業者にとって過酷な環境が続きますが、弊社はお客様の負担増ができるだけ少なくなるよう努力致します。物量あつての調整力ゆえ、皆様のご高配に本当に感謝致します。

③ 色物オリエンタルの減少傾向

シベリア、バンドームなどメイン品種の供給減少は来年以降回復が見込まれますが、色物オリエンタルの多くは計画的な減少傾向を示しています。

バンザンテン社は、サレンダー(今年が最後)、シーラ、バリスタなどを減少させ、様々な環境に対応でき、世界各国で需要が見込めるOTを中心に、生産品種を更新しています。チリ産も含め、アルバレート、テーブルダンス、マスターなどが増えてきますが、オリエンタルに比べ生育が早く、低温や温湿度変化にも比較的鈍感など、日本の冬～春の切花生産でもメリットがあります。

白系では、シベリアが安定供給商材として定着していますが、晩生で日照も温度も必要なため、エネルギーコスト面で冬作に最適な特性ではありません。球根生産者の意向(近年相次ぐフランスからの撤退)や、中国(シベリアの唯一最大需要)の動向次第で、今後も生産は揺れ、一喜一憂することになります。一方で白は世界需要が強く、品種の選択肢や生産も多いので、既存品種の生産が減少した場合、切花市場でも段階的に品種の多様化・近代化が進んでいくと思われます。

世界の球根生産者、切花生産者双方にとって、作りやすく、環境や人にやさしく、今後起きうる規制や消費の意識変化(一般消費増による影響)、資源の制約、労働力不足、生産・物流コストの変動においても、持続可能で発展的な百合の生産・流通・消費体系(消費者の感動体験)を実現していくには、品種のバージョンアップと、花業界の皆様のチャレンジスピリッツが重要になります。

「6月のゆりの展示会」(6月15～17日)にて皆様をお待ち申し上げます。

よろしくお願い致します。

以上